

## 森ものがたり特別記念号 発行に寄せて

“みんなでつくる森ものがたり”の発行が71回を迎えました。

入会当時、私たちは夫婦と2人の子どもの4人家族全員で参加しました。子どもたちは幼く、今年小学校を卒業する次男はまだ歩くか転がっているかという頃だったように記憶しています。

手元にあるファイルを見ると‘96年の4月に自然観察センターより新規参加者への行事案内をいただいています。その中に「この会では、樹木の育成、森の手入れ、自然観察会などを月1回程度行いながら市民の手で若いドングリ林を多くのいきものがすむ森に育てていく予定です」とあります。

入会后、メンバーの方から入会を喜んでいる旨の手紙をいただいたことは、新しい人との出会いをよろこぶ森会の雰囲気(体質)にふれた最初でした。

‘95. ‘96年当時の「森ものがたり」は、中村聡レンジャー、木村素子レンジャーによって編集作成されていました。

‘97年5/1号では『“みんなでつくる森ものがたり”も活動と共に3年目を迎えました。これまで年4回のレンジャーによる発行でしたが、メンバーの方との3月の運営会で、発行は年6回とすること、内容はボランティアが積極的に参加してできるかたちのものにする事になりました。(中略)みんなで森を育てていくように、この“森ものがたり”もつくっていただけると考えています。(木村R)』とありボランティアへの活動の移管の始まりが記されています。

さらに、‘98年5/9号では、会員の園田尚子さんが編集後記で『3年間“森ものがたり”を育ててくださった木村素子さんからバトンを受け取った園田です。今まで以上に皆さんの笑顔が見える“森ものがたり”にしたいですねー』とあり、ボランティアへ編集作成が移っています。‘98年9月から現在の森順子さんが編集に加わっておられます。その後‘02年3月に規約を発行し活動もボランティア主導となり、現在へ続いています。

カブトムシの森のクヌギも大きく育ちずいぶん林らしくなってきました。アカマツの保全活動も進んでいます。

会員のみんなで活動内容を決め、みんなで森を育ててきました。

「森ものがたり」も年6回の発行を欠かさずに継続することができました。これも編集担当の森さんを初め会員の皆様のおかげだと思います。どうもありがとうございます。また、様々な形で支援いただいた皆様にも心より御礼申し上げます。

これからも会報が100号、200号と続く森会活動を願っています。

会員のみんなが主役の活動にご協力をお願いいたします。

なお、特別号を発行するにあたり、当会の12年の記録となる物を目指すと同時に、これからこのようなボランティア活動を興そうとしている方や、活動のただ中にある方々の参考になることを願い編集いたしました。我々が何に悩み、何を喜びとして活動を続けてきたのかが、少しでも皆さまのご参考になれば幸甚です。

2007年3月4日 代表 古川哲郎